

PRAEVIDENTIA DAILY (2月12日)

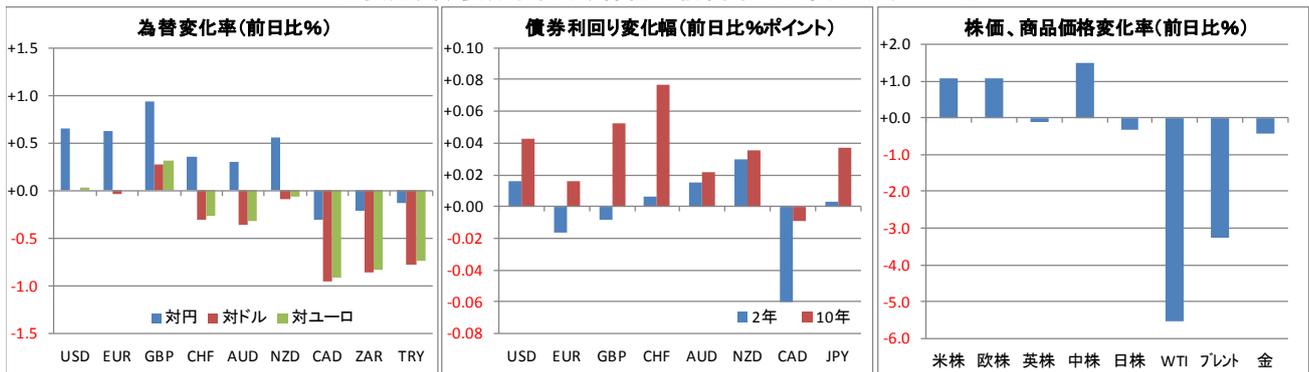
昨日までの世界：ギリシャ支援問題の進展期待からドル/円続伸

10日は、11日のユーロ圏緊急財務相会合を控えてギリシャ問題の進展期待からギリシャ国債利回り低下・株価は上昇、米価や中長期債利回りも上昇したため、ドル/円が118円台前半から一時119.61円へ上昇した。

ユーロ圏では、11日のユーロ圏緊急財務相会合を控え欧州委員会が妥協案を提示するとの報道が悲観論の後退に繋がった。内容としては、ギリシャの現行支援プログラム(2月末まで)の6か月間の延長申請を求め、8月末までに懸念事項や支援終了後の計画等について合意するというものようだが、欧州委は正式な提案は行っていないとした。こうした中、ユーロ/ドルは1.13ドルから1.12ドル台後半へ軟化しており、ユーログループ会合に関する上記報道を受けて下落分を取り戻す局面も見られたが、大幅上昇には至っていない。ユーロ/円はドル/円が上昇(円安)する中で上記報道による押し上げもあって、134円台前半から135円台乗せとなった。

豪ドルは、中国総合CPI前年比が+0.8%と前月、市場予想を下回り、デフレ懸念が高まったことから、逆に追加金融緩和期待が高まり、中国株価が上昇すると、0.78ドル丁度近辺から0.78ドル台半ばへ強含む局面も見られた。もっとも、中国株式市場引け後、欧州時間入り後に中国人民銀が四半期金融政策報告を発表し、景気に関するリスクは下振れ方向で、適宜政策調整を行うとした一方、金融システムに関するリスク増大を防ぐために、過度の資金供給や引締めは控える方針を示したこともあってか、豪ドルは0.77ドル台半ばへ反落した。カナダドルは、原油安を受けて対米ドルで1%近く下落した。

主要通貨、債券利回り、株価の前営業日比変化(2月10日)

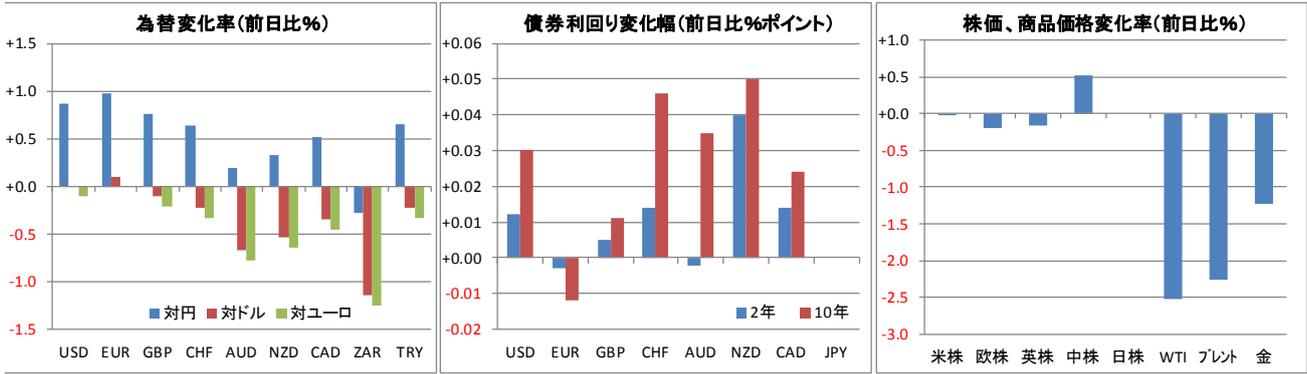


本邦休場の11日も、10日とほぼ同様に、ユーロ圏緊急財務相会合への期待感が高まる中、本日早朝にギリシャとユーログループが支援継続で合意との報道が流れたことから、米中長期債利回りが更に上昇する中でドル/円が120円台乗せへ続伸した。ドル/円は一時120.48円へ上昇し、1月後半以降の116-119円のレンジは完全に上抜けし、年初来高値(1月2日の120.74円)および直近高値(昨年12月日の121.84円)に迫ってきている。

ユーロは、ユーロ圏緊急財務相会合を控え、欧米時間にかけて1.13ドル台前半から1.12ドル台後半へ軟化していた。もっとも、本日早朝にギリシャとユーロ圏が現行支援プログラムの継続で合意したとの報道を受けて一時1.1350ドルへ大幅反発した。情報が錯そうしているが、今回の財務相会合で交渉が決裂しておらず、少なくとも2月16日の財務相会合まではギリシャとトロイカ(EU、ECB、IMF)の間で協議が継続される模様だ。

カナダドルは原油続落を受けて軟調となった。豪ドルやNZドルは、カナダドルにつれ安となったほか、全般的な米ドル高傾向を受けて、対米ドルで下落している。

主要通貨、債券利回り、株価の前営業日比変化(2月11日)



きょうの高慢な偏見：消費大国アメリカ？

きょうの注目通貨：AUD↓、GBP↑

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
豪 1 月新規雇用者数	9 : 30	3.74 万人	5000 人	
同失業率		6.1%	6.2%	
スウェーデン中銀金融政策決定	17 : 30	0.00%	0.00%	
ユーロ圏 12 月鉱工業生産・前月比	19 : 00	+0.1%	+0.2%	
BoE 四半期インフレ報告	19 : 30			
BoE、インフレ目標下割れを財務相に説明				
米 1 月小売売上高・総合・前月比	22 : 30	-0.9%	-0.5%	
同コア小売売上高・前月比		-0.4%	+0.5%	
Stevens・RBA 総裁議会証言	7 : 30			
EU 首脳会合 (13 日まで)				

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日は豪雇用統計、英 BoE 四半期インフレ報告 (10 日付デイリーで 11 日発表とお知らせしましたが 12 日の誤りでした。以下再掲します) およびと米小売売上高が注目される。

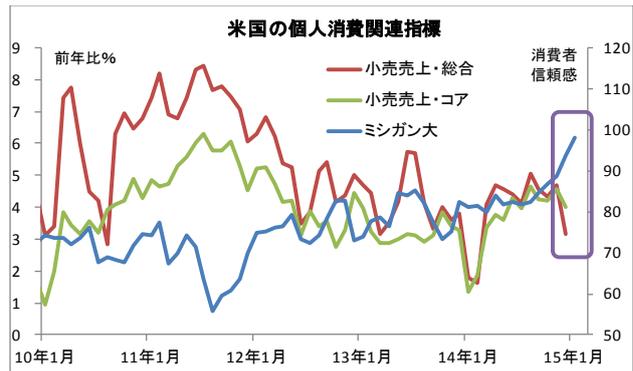
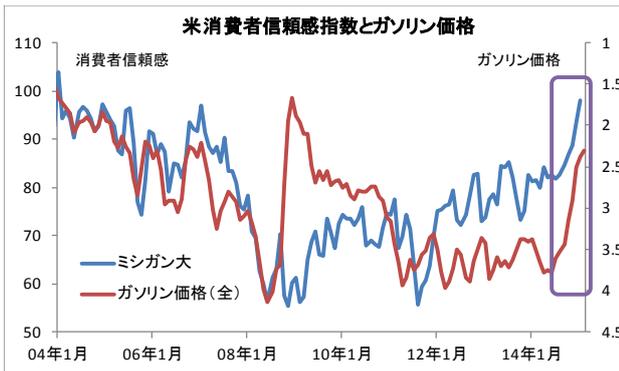
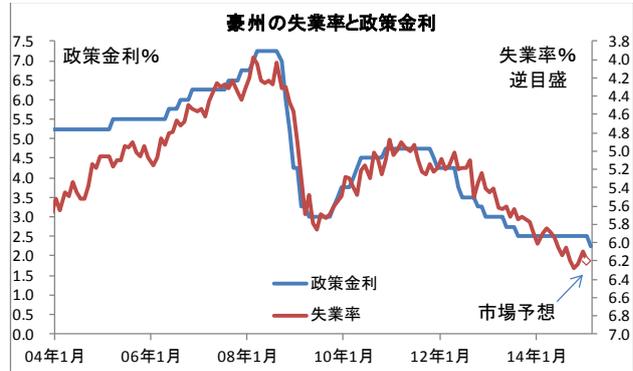
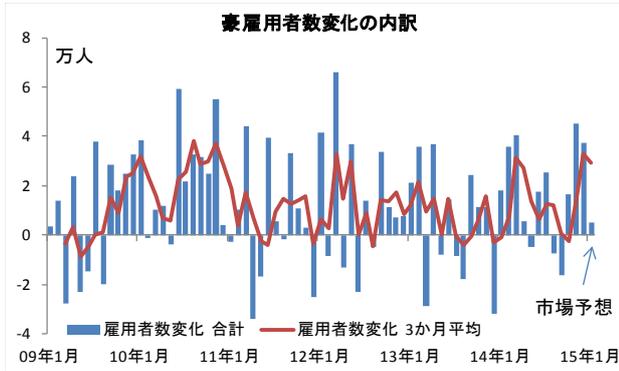
豪雇用統計では、雇用者数の増加は前月の+3.7 万人から+0.5 万人へ大きく減速する見込みとなっているが、月次の振れが非常に大きく、むしろ過去に RBA 政策金利と非常に連動性が高かった失業率の動向の方が注目される。前月は若干低下したが、このところ上昇基調にあり、2 月理事会での RBA 利下げを正当化する材料の一つとなっていた。今月は再び上昇する見込みとなっており、市場予想を更に上振れするようであれば、次回 3 月理事会での追加利下げ期待が高まり豪ドル安に繋がるだろう。また、金曜早朝には Stevens・RBA 総裁の議会証言も予定されており、これまで月次声明文や四半期金融政策声明で示されなかった今後の利下げ姿勢についてヒントがないか、注目される。

英 BoE 四半期インフレ報告では、既に直近 12 月分の総合 CPI が+0.5%へ低下している中で今年のインフレ見通し (前回 11 月 : +1.4%) の下方修正はある程度織り込まれており、むしろ来年分 (前回 11 月 : +1.8%) がどの程度下方修正されるかが注目、大幅な下方修正だとインフレ目標 2%から更に遠ざかるため、利上げ開始時期の期待が更に後退しポンド安圧力となる。他方、来年のインフレ見通しが下方修正されず、むしろ週平均賃金 (AWE) 予想 (前回 11 月 : 今年+3.25%) が上方修正されるような場合にはポンド高要因となろう。BoE は足許のインフレ低下については一時的で、むしろ原油安の景気刺激効果を重視しているほか、昨年後半以降重視している週平均賃金はこのところ伸び率が高まっており、来年までずれ込んだ市場の利上げ開始期待が前倒しされる余地は大きい。また、BoE は同日 11 日に、インフレ率が 2%±1%であるインフレ目標を下割れしたことについて財務相に説明することとなっている。ここでも、足許のインフレ低下が一時的であるため金融緩和を行う必要性が低いことが強調されると、ポンド買いとなる可能性がある。

ドル/円は、米小売売上高が市場予想を上回れば、121 円方向へのじり高もありそうだ。米国では第 4 四半期 GDP 成長率でも示されていた通り、消費が非常に堅調な伸びを示している。その一因に原油安・ガソリン価格安があるとみられ、実際ミシガン大消費者信頼感などは原油安と共に大きく改善している。小売売上高ではこうした消費マインド改善が実際の支出増に繋がるかが焦点となる。ガソリン安自体はガソリン支出を減らすた

めマイナス要因だが、雇用増や賃金上昇と相俟って、ガソリン安で浮いた分のお金が他の消費に向けられ、小売売上全体を押し上げたことが分かれば、米景気の強さを示すことになる。上値目途は年初来高値（1月2日の120.74円）および直近高値（昨年12月日の121.84円）だ。

ユーロは、予想外に早くギリシャ問題について合意する可能性が浮上しており、ユーロは底堅く推移している。本日のEU首脳会合（あすまで）についても情報が錯綜する可能性は高いが、支援の延長有無について各国議会での審議の時間などを踏まえると支援延長に関する実質期限とされる16日まではこうした一進一退の状況が続き、どちらかという足許のセンチメントではユーロは強含みが続きそうだ。



**ディスクレイマー**

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社  
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第2733号  
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641